

## 六ツ南かるた

「六ツ南かるた」は2010（平成22）年に六ツ美南部小学校の6年生が、「総合的な学習の時間」で作成したものである。六ツ南かるたは六ツ美南部学区のことを調べ、児童たちが後世まで語り継ぎたい自然・歴史・偉人・産業・文化財などを選定し、学校の先生、地域の人人々と共に製作したものである。文字は鶴田千枝さん、絵は浅井貞男さんの協力により作成された。毎年、六ツ美南部小学校の「心あったかふれあい教室」で六ツ南かるた大会を実地している。

例えば、6年生の各学級では、1回戦「子どもの部」（読み手／先生）、2回戦「親の部」（読み手／子ども）、三回戦「親子の部」でそれぞれ4～5人のグループで行われ、優勝・準優勝には学校側から賞状が贈られる。ルールは、両手を頭につけ無言で待ち、読みあげられた句のかるたを取る。読みあげられている途中で「はい！」の掛け声と同時に大きな歓声が沸き上がり、寒さを吹き飛ばす白熱した戦いがくりひろげられている。時には、ユーモアを交えて下の句から読み出すなど、変化にとんだかるた大会である。親子の部では、子どもたちのほうが素早く反応するなど、子どもたちがかかるたに慣れ親しんでいる様子が伺える。子どもたちにとって、かるたづくり、かるた大会を通じて、自分たちが住んでいるまちのことについて知る機会や、家族でふれあう機会となっている。



六ツ南かるた大会 20110122



六ツ南かるた大会 20110122



六ツ南かるた大会



六ッ南かるた大会

六ツ美南部小学校では、毎年、「六ッ南かるた」を利用して、かるたの内容にちなんで、現地を見て回る「かるたウォーキング」を実地している。



六ッ南かるたウォーキング



六ッ南かるたウォーキング



以下にかるたを示す。





あ  
あおみ野に  
薫る菜の花  
悠紀の里

#### あおみ野

「あおみは明ける広い野に」「かおる菜の花をよぐ風」は六ツ美南部小学校の校歌の歌詞であり、この六ツ美南部学区の自然の豊かさを象徴する言葉である。「悠紀の里」は悠紀斉田から名付けられ、お田植え祭等、伝統文化を大切に継承している。



い  
いつの世も  
力あわせる  
占部中島

#### 占部と中島

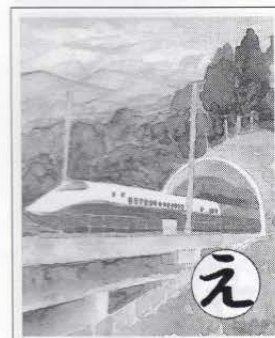
現在の占部は国正町・定国町・中村町・正名町・二軒屋町、中島は中島町・中島中町・中島東町・中島西町・安藤町を表す。長い歴史の中で、占部と中島は地区として分けられていたが、隣接し、経済・産業・文化等の面で互いに影響し合い、発展を続けてきた。



う  
受け継いで  
稲作文化  
綾川と

#### 悠紀斉田と主基斉田

天皇が位につくとき、即位式に使うお米を作る田を「斉田」という。京都より西を「主基」、東を「悠紀」と呼び、それぞれ斉田を選定した。大正天皇が即位された時、悠紀の地は岡崎市中島町が、主基の地は香川県綾川町が選ばれた。



え  
絵のように  
四季を装う  
羽角山

#### 羽角山

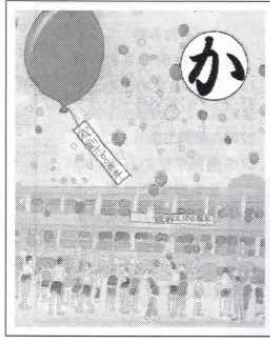
羽角山は、春の新緑、秋の紅葉と四季を彩っている。標高118m。ふもと周辺に貝塚・遺跡・古墳が見つかり、太古より人が住んでいたことを物語っている。現在は、新幹線のトンネルがあり、また頂上まで88の地蔵が道案内をしている。



お  
小園池  
主を助けた  
恩返し

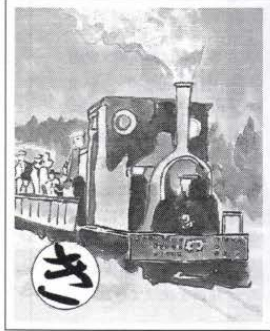
#### 小園池の主

小園神社の池の伝説である。冬の夜、荷に扮した小園池の主が老人に「池から広田川へ移してほしい」と言った。老人は、翌朝、池に鯰を見つけ、広田川へ逃がしてやった。その夜、荷が現われ、老人に「この樽に酒と広田川の水を入れて売ちなさい」と言った。この酒が評判になり、老人は大金持ちになったという伝説である。



学校の  
百歳祝う  
か  
二〇〇八

**創立100周年**  
1908年(明治41)、中島学校と占部学校がまとまって、六ツ美第三尋常小学校ができた。それから100年後の2008年11月に、創立100周年記念式典が盛大に開催された。校旗(1935年)、校歌(1959年)ができ、1962年に校名が岡崎市長六ツ美南部小学校となった。



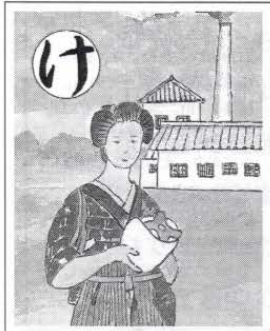
汽車走る  
西尾岡崎  
き  
軽便の道

**西尾軽便鉄道**  
1910年(明治43年)、西尾の人が中心となり鉄道会社をつくった。六ツ美からは鍋田恒雄と鶴田勝蔵が協力し、1911年、西尾駅と岡崎新駅の間13.3kmが開通した。1929年(昭和4年)に電化され近代적인になった。1943年(昭和18年)戦争が激しくなり廃線となった。線路の一部は校庭に残っている。



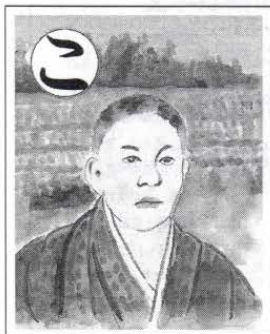
繰り返し  
戦う占部と  
中島の城  
く

**中島城と占部城**  
戦国時代、学区に中島城と占部城という城があった。中島城は中島町付近を板倉氏が、占部城は、国正町付近を渡辺氏が治めていた。「板倉好重の戦死地」、「善明堤の戦い」など、城をめぐる激戦を伝える記念碑が残されている。



県下一  
生系を作った  
杉浦製糸  
け

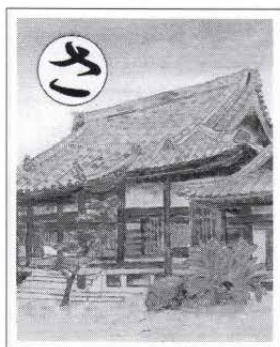
**杉浦製糸所**  
1898年(明治31)、杉浦藤助が六ツ美南部小学校の西側に愛知県で屈指の大工場「杉浦製糸所」を造った。多くの生糸が外国に売れ、工場も大きくなり、一時期500人近い女工が働いていた。現在、工場跡地には大きなマンションが建っている。



耕地整理し  
二毛作遂げた  
鶴田勝蔵  
こ

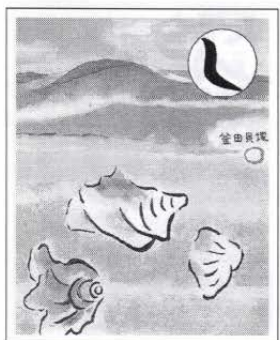
**鶴田勝蔵 (1843～1910)**  
全国に先駆けて耕地整理事業を成し遂げ、碧海郡中島村の農地を二毛作ができる水田に整備した。そのため、麦や菜種が栽培されるようになった。また、鍋田恒雄とともに「軽便鉄道」開通にも尽力し、多くの面で中島が「悠紀奇田」に選ばれる働きをした。





三百の僧が修行した  
崇福寺

**崇福寺**  
はじめは昌泰寺といい、天台宗の寺であった。1528年、天祐上人が中島に来た時、中島城主の由良光家の願いにより、浄土宗の崇福寺と名を変えた。常に300人ぐらいの多くの僧が寺で勉強し、70もの寺を従えていた。



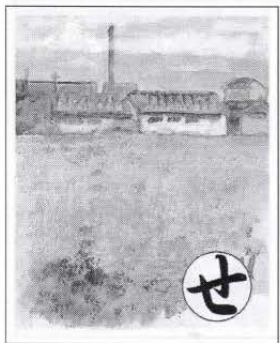
縄文の人の集まり  
釜田貝塚

**釜田貝塚**  
羽角山のふもとの高さ10mの所にある。およそ6,000年前の縄文時代のものとされている。ここでは、ハマグリ・サルボウ・カキなどの貝殻が50cmの厚さで積もっている。また、模様のある縄文土器も発見され、人間の生存を証明している。



菅の笠  
お田植え唄

**お田植え唄**  
1番の作詞者は熱田神宮宮司の岡部譲、2番は衆議院議員の早川龍介、3番は愛知県農林学校（現・安城農林高校）校長の山崎延吉である。1966年（昭和41）、お田植え唄と踊り、装束は岡崎市無形民俗文化財の指定を受ける。



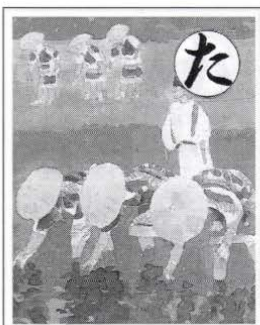
全国に誇る生産  
菜種の油

**六ツ美の菜種**  
六ツ美のじめじめした田には菜種がよくでき、碧海郡農業補習学校の太田巧平らにより、2倍以上の収穫がある品種が作り上げられた。そのため昭和初期には、全国で1・2の生産地となり、六ツ美の菜種は有名になった。1950年代、生産は最盛期を迎えた。



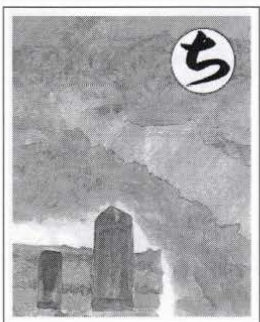
疎開する子どもが生活  
龍泉寺

**龍泉寺の疎開生活**  
太平洋戦争末期の1944～1945年（昭和19～20）、326人の子どもが龍泉寺・崇福寺・浄光寺などに疎開（子どもが戦火を避け、田舎で集団生活する）してきた。食料難から郵便鉄道の跡地や学校の運動場は、大豆やさつまいもの畑となった。



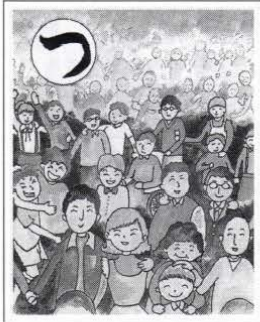
大正の  
天皇即位  
お田植え祭

**お田植え祭**  
大正天皇が天皇の位に就いたとき、即位式に使う新米を作る田を寄田といい、全国で2か所選ばれた。その1か所が中島の早川定之助の田であった。現在、お田植え祭保存会がつくられ、行事が長く続けられるように努力されている。



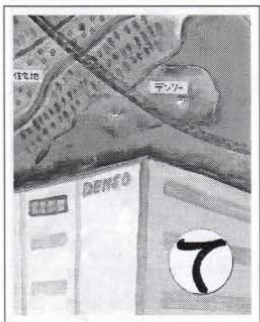
治水の  
記念碑語る  
広田川

**広田川の改修工事**  
昔の広田川は、川幅が狭く、曲がりくねっていたので、大雨が降るとたびたび洪水を起こした。昭和の2度の大工事で、今のような丈夫な広田川になった。素盞鳴神社の近くに広田川を改修した2つの記念碑（昭和8年、38年）が建っている。



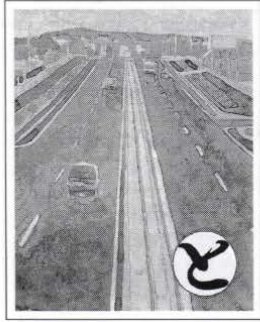
つなぎあう  
一万の手と手  
六ッ南学区

**1万の手と手**  
平成22年6月の六ッ美南部学区の人口は10,917人で世帯数は3,893戸である。学区社会教育委員会主催の行事等がたいへんさかんで、多くの参加者を集めている。常に手と手を結び、力を合わせて胸を張って躍進している。



デンソーが  
できて学区の  
力増す

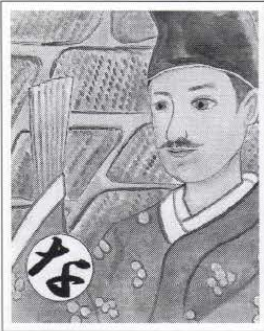
**デンソー**  
1970年（昭和45）、六ッ美南部学区の近くに、デンソー西尾製作所ができた。それにあわせて、中島では土地区画整理が行われ、田畑が住宅地になり、道路が整備された。新しい家・マンション・アパートが立ち並び、児童数も増し、一層の活気がみなぎっている。



東名に  
通ずる便利な  
衣岡線

**衣浦岡崎線**  
現在（2010年）、衣浦岡崎線は、国正町や中村町、二軒屋町で工事が進められている。完成すると、県道岡崎環状線とつながり、東名高速道路や国道1号線へ通じて便利になる。さらに住みやすく活気のある学区になることが予想される。





中島を  
方盛治める  
平安の世

#### 四条方盛

901年、醍醐天皇の時代、国司として、四条方盛が中島に来て治めた。その後、四条方盛の子孫と思われる中島内匠頭与五郎（1185年）、中島与五郎藤原朝臣方盛（1510年）が領主として中島に住んだ。崇福寺には、この与五郎の墓がある。



にぎわった  
昭和初期の  
中島の街

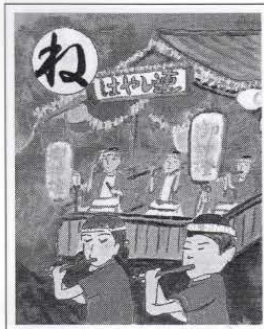
#### 中島商店街

昭和の初め頃、中島の商店街は県道沿いに135軒もの店があり、街はにぎやかで景気がよく活気があった。店の種類が多く、駅の近くにタクシー屋や料理屋・旅館もあり、また、1931年には中島新町に「陸劇場」ができ、芝居を上演した。



沼荒れ地  
安藤直す  
杉浦定吉

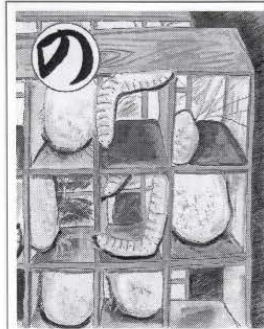
杉浦定吉（1854～1910）明治の頃の安藤は、沼や荒れ地が多く、水はけの悪い土地であった。定吉は川幅を広げ、排水路を作るため、農民に説いて回った。しかし、自分の田畑がつぶれるという反対者が多かった。定吉の努力で、1901年（明治34）に工事は完成し村は潤った。



練り歩く  
日長八幡  
ちりからばやし

#### ちりからばやし

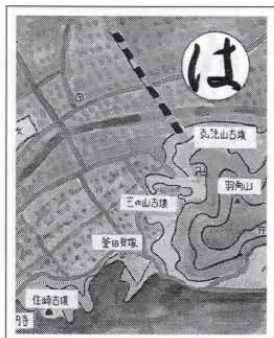
明治の頃には行われていた催しである。学区には、日長神社と八幡社におはやしが伝えられていたが、それぞれのおはやしは少し違っていた。現在では、八幡社のちりからばやしのみとなり、太鼓と横笛で町の中を練り歩いている。



農家では  
米麦菜種に  
蚕飼う

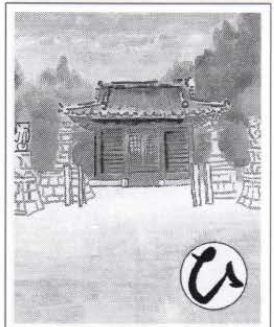
#### 蚕と農家

蚕は、桑の葉を食べて大きくなり、体の周囲に繭を作る。その繭から生糸を採る。1933年（昭和8）頃の六ツ美南郷小学校の辺りは、ほとんどの農家で、田では米や麦や菜種を作り、畑には桑を植えて、家では蚕を飼っていた。



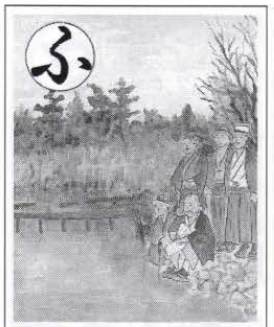
は  
古墳群  
羽角から  
長円寺へと

三の山古墳  
羽角山から長円寺山までの小高い所に、数多くの古墳が見つかった。その数は大小90ほどある。どれも1,300～1,400年前の古墳で、直径10～15mの丸い墓である。三の山古墳は、規模が大きく、1つだけ離れていることから、特別な人の墓と考えられている。



ひ  
素盞鳴神社  
日良磨を  
祀る占部の

素盞鳴神社  
平安時代の占部は、荒地の多い所であった。都から来た卜部日良磨は、農民に開墾を説き、人々の暮らしをよくした。そのことに村人が感謝し、いつしか占部と呼ぶようになった。素盞鳴神社は、この日良磨を神として祀っている。



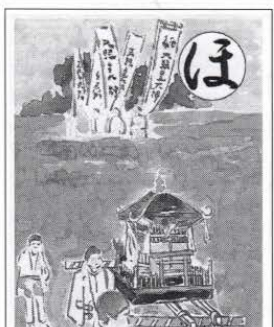
ふ  
高橋用水  
不毛地を  
潤す明治の

高橋用水  
昔より矢作川の高橋町を水源とした用水であり、高畑・安藤など10村が灌漑区域であった。1883年(明治16)に大改修があり、中島や上羽角をはじめ21村の地域が新たに編入された。現在は道路下に埋められ通水路となっているところもある。



へ  
芦嶋五郷の  
名を残す  
平安は

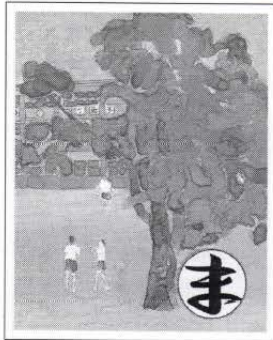
芦嶋五郷  
平安時代、六ツ美は碧海郡庄の中にあって、碧海郷・和田郷・占部郷・中島郷・江原郷に分かれていた。地図を見ると、現在の占部川・矢作川・矢作古川・広田川で囲まれ、西尾の江原町まで入っていた。少し高い所にアシがはえる土地で、芦嶋五郷と呼ばれていた。



ほ  
御田扇祭  
豊作を  
祈る神々

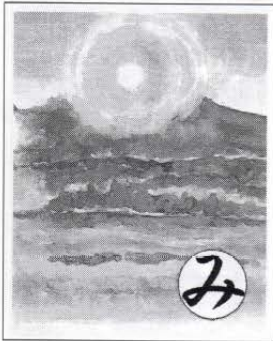
御田扇祭 (おおぎさん)  
江戸時代から伝えられる虫送りの行事である。農民は、神の力を借りて米につく虫を追い払い豊作を願った。祭りは、伊勢神宮の陰の扇を神輿に納め、大きな団扇であおぎながら村中を回る。現在13の神社を年ごとに移動している。





学ぶ子を  
百年見守る  
梅檀の木

**梅檀の木**  
開校当初より存在し、樹齢は100年を過ぎていると思われる。この六ツ美南部小学校の子どもたちの100年の歴史を校庭から見守っている。梅檀の木は5・6月に円錐状の淡紫色の花を多数つけ、10～12月に長径2cmほどの楕円形の実を熟す。



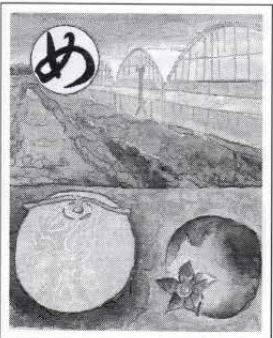
南から  
岡崎照らす  
六ツ南学区

**六ツ美南部学区**  
岡崎市の最南端に位置する六ツ美南部学区は、市の中心には遠く、不便さを感じてきた。しかし、団結力は強く、いろいろなことを率先して行う強い志をもっている。お田植え祭などの伝統文化をはじめとして、市全体に力強く発信している。



睦み合う  
心で誕生  
六ツ美村

**六ツ美村**  
1906年(明治39)4月、青野村、合歓木村、中島村、占部村、横海村、中井村の6村が互いに睦み合い、助け合うことを目指して、六ツ美村が誕生した。初代村長は鍋田恒雄であった。1958年(昭和33)、六ツ美村は六ツ美町になった。



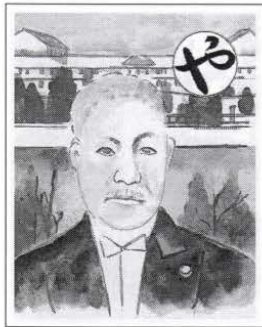
名産は  
ハウスで栽培  
なすメロン

**ハウス栽培**  
昭和28年頃、ビニルの利用が農業のやり方を変え、ビニルトンネルでイチゴやきゅうりを栽培する80戸の農家があった。しかし、病気にかかりやすく手間もいるという理由で、なすやメロンのハウス栽培に切り換えられ、県下第一のなす生産地に成長した。



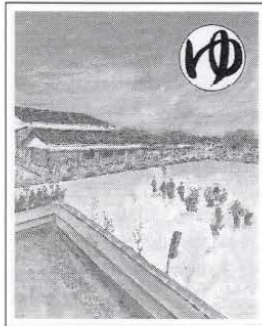
持ち稲の  
萬歳育て  
奉献する

**萬歳**  
中島の悠紀斎田で奉獻するお米として育てられた稲の品種名である。島根県農事試験場で育種した早生種で、従来から碧海郡で栽培していた「郡益」という名前であった。これを永久に記念するため、特に「萬歳」と改称して使用した。



山ほどの  
六ツ美に貢献  
早川龍介

早川龍介 (1853～1933)  
明治23年(1890)第1回帝國議会の選挙で衆議院議員に選ばれ、それから10回当選した。国や県、この六ツ美のために大変尽力した。特に、耕地整理や高橋用水の整備など、六ツ美の産業・文化・教育の発展のために生涯を通じて活躍した。



悠紀の里  
コミュニティ広場で  
活気づく

悠紀の里コミュニティ広場  
現在(2010年)、六ツ美南部学区において、住民が勉強し、ふれ合うため、また、安全で住みよい生活のための消防施設や交番を含めた地域交流施設の計画が進んでいる。これにより、人が輝く、活気と活力にあふれた学区となることを願っている。



喜びは  
岡崎合併  
昭和三十七年

岡崎市に合併  
町村合併促進法を受け、1962年(昭和37)10月1日、六ツ美町は岡崎市に合併された。当時の中島の人口は4,809人(831戸)、占部の人口は2,120人(413戸)であった。この合併により、岡崎市は、人口16万4千余人、面積229.82km<sup>2</sup>の都市となった。



山ほどの  
六ツ美に貢献  
早川龍介

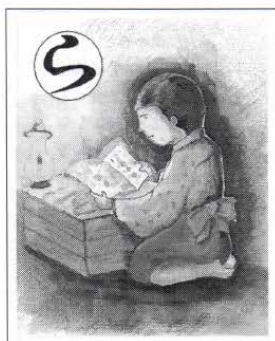
悠紀の里  
コミュニティ広場で  
活気づく



悠紀の里  
コミュニティ広場で  
活気づく

悠紀の里  
コミュニティ広場で  
活気づく

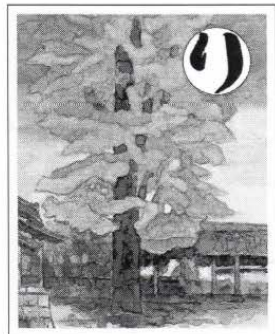




ランプ点け  
勉強励む  
開校時

#### 開校時の小学生

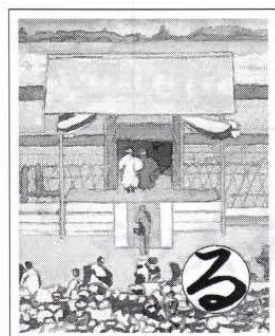
開校時の小学生は、わらざうりをはき、書き方・読本・修身・算術の教科があり、成績のよい児童は、教科書がもらえた。逆に落第者もいた。また、電気がなく、ランプを灯して勉強した。家の手伝いが忙しく、農家の田植え時は1週間ぐらい休みがあった。



凜と立つ  
銀杏を仰ぐ  
浄光寺

#### 浄光寺

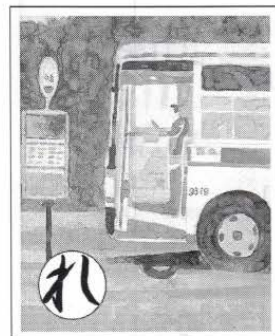
1464年、碧海の小川城主の石川新十郎・源義信が出家して当寺を中興する。浄光寺には、岡崎市指定天然記念物のイチヨウ・ハマボウがある。イチヨウは、胸高囲4.05mに達する樹齢300年の巨樹であるが、樹勢は極めて良好である。



瑠璃の空  
七万臨む  
お田植え式

#### お田植え式

お田植え式は、1915年(大正4)6月5日午前10時、中島悠紀斎田において舉行された。式典の斎主は、岡部熟田神宮司、副斎主に神山知立神社社主、他碧海郡神職会神職30名、来賓700名、参観者7万人と言われている。



列車から  
バスに代わった  
中島の駅

#### 中島の駅

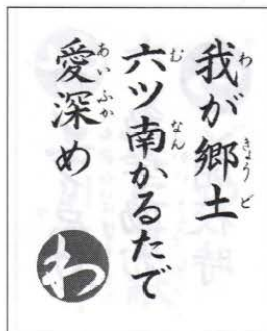
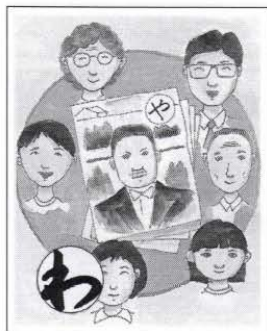
西尾軽便鉄道は、岡崎新駅と西尾駅間の13.3kmを玄米・石炭・肥料・繭などを運び、人の行ききを便利にし、村を活気づけた。また、悠紀斎田お田植え祭や岡崎菅生神社の祭礼時等には臨時列車が出てにぎわった。現在、中島駅の跡地はバス停になっている。



労を執る  
野本渡辺  
占部の偉業

#### 占部用水

慶長年間(江戸時代以前)占部は日照りで苦しんでいた。野本新十郎と渡辺弥蔵は、矢作川と乙川の合流する天白を水源とし、占部まで8kmの用水路を造り始めた。二人は家や土地を売って工事を進め1603年に完成した。占部川神社にその碑がある。



六ツ南かるた  
平成22年度6年生は郷土をよく知り、郷土を愛するようになることを願い、学区の自然・歴史・産業等を「六ツ南かるた」として作り上げた。絵は浅井貞男さん、書は鶴田千枝さんをお願いするなど、多くの学区の方の協力を得ている。

## 六ツ南かるた

平成22年12月1日 初版発行

編集 岡崎市立六ツ美南部小学校  
著作 平成22年度6年生

文字 鶴田 千枝  
絵 浅井 貞男

発行者 岡崎市立六ツ美南部小学校  
六ツ美南部学区社会教育委員会

制作 教育広報センター  
電話 0564-53-2231

発行日 平成22年12月1日



実際のかるたはカラーでありその一部を次に示す。



本項は以下の資料を引用している。

#### [六ツ南かるた]

編集：岡崎市立六ツ美南部小学校

著作：2010（平成 22）年度 6 年生

発行者：岡崎市立六ツ美南部小学校、六ツ美南部学区社会教育委員会

制作：教育広報センター

文字：鶴田千枝、 絵：浅井貞男

発行日：2010（平成 22）年 12 月 1 日 初版発行

#### [六ツ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 高須 亮平

発行日 2012（平成 24）年 3 月 31 日 初版発行

印刷所 ブラザー印刷株式会社